

# 発 言 通 告 書 要 旨 (1枚目/全3枚)

氏 名 上野 清隆

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
1	<p>(1) 高付加価値商品造成・販売事業について 体験コンテンツの具体的なイメージとローカルガイド育成について</p> <p>本事業は、海外富裕層向けの高付加価値体験コンテンツの商品造成・販売に加え、これらに対応できるローカルガイドの育成を行い、本市のブランド力向上と観光消費額の増大を図り、持続可能な観光地の実現に寄与するものとされている。</p> <p>当局としてどのような体験コンテンツの商品造成を想定しているのか。</p> <p>また、ローカルガイドの育成については、海外富裕層向けに特化した専門ガイドの育成を指すのか、あるいは一般的な観光ガイドの育成も含むのか、その具体的なイメージを併せて示せ。</p>	
	<p>(2) 風傳流槍術の高付加価値商品としての可能性について</p> <p>風傳流槍術は、藩政期に大聖寺藩で広まり、現在では大聖寺系譜のみが現存する極めて貴重な古武道である。大聖寺の歴史や武家文化を体験できる、唯一性の高いコンテンツであり、海外富裕層向けの体験型観光メニューとしての可能性は大きいと考える。</p> <p>現在、「大聖寺藩伝 風傳流保存会」の皆さんが体験コンテンツづくりに取り組んでいるが、市として連携・支援を行う可能性や必要性をどのように認識しているか、所見を問う。</p>	
	<p>(3) 風傳流槍術の文化財的価値と、調査、記録の必要性について</p> <p>風傳流槍術を観光コンテンツとして磨いていくためには、歴史的背景の整理や、将来的な保存、技術継承の在り方をしっかりと記録していくことが不可欠であると考えます。</p> <p>市として、風傳流槍術の文化的価値についてどのように認識しているのか。</p> <p>また、その保存に向けた調査、記録の必要性をどのように考えているのか、所見を問う。</p>	
2	<p>(1) 就学前相談について 就学前相談における福祉的視点について</p> <p>就学前相談において、保護者の方が不安を抱えるケースがあると聞く。本来、就学前相談は、子供の特性を踏まえながら「どのような支援があればよりよい環境で学べるか」を一緒に考える場であり、福祉的な視点が重要であると考えます。</p> <p>そこで、本市の就学前相談において、この福祉的視点をどのように位置づけているのか。</p> <p>また、加賀市の就学前相談は現在どのような流れ、手順で実施されているのか。</p>	

# 発 言 通 告 書 要 旨 (2枚目/全3枚)

氏 名 上野 清隆

発言番号	発言事項及び発言要旨	備 考
(2)	<p>多様な選択肢の説明について</p> <p>障がいがあっても、地域の学校に通う権利や、普通学級を希望する権利があり、就学先の決定は本人や保護者の意見を最大限に尊重することが大事だと考える。</p> <p>加賀市の就学前相談では、本人や保護者に対して通常級・通級・特別支援学級・特別支援学校といった多様な選択肢について明確に説明しているのか、所見を問う。</p>	
(3)	<p>5歳児健診導入後の効果と連携について</p> <p>令和9年度に5歳児健診の導入を目指していると聞いているが、この5歳児健診を導入することにより支援ニーズを早期に把握し、適切な支援につなげることが可能となり、保健福祉部局と教育委員会が情報を共有することで、就学前相談の質の向上と保護者の安心にもつながると考える。5歳児健診の導入により、加賀市としてどのような効果を期待しているのか、所見を問う。</p>	
3	<p>(1)</p> <p>大聖寺ゲートウェイについて</p> <p>大聖寺ゲートウェイの公募型プロポーザルの課題について</p> <p>大聖寺ゲートウェイは、公募型プロポーザルにより、設計、施工から管理運営までを一体で担う事業者を選定する方式が採用された。当初、株式会社HEP JAPANを中心とするコンソーシアムが令和4年度から令和13年度までの10年間、指定管理料0円で運営する予定であったが、急激な経営悪化を理由に指定管理解除の申出があり、現在指定管理事業であるコワーキングスペース等や自主事業であるベーカリーカフェが臨時休業となっている。</p> <p>このような状況を踏まえ、市として今回の設計、施工から管理運営までの公募型プロポーザルの課題についてどのようにとらえているのか、所見を問う。</p>	
(2)	<p>大聖寺ゲートウェイの今後の運営方針について</p> <p>現在、令和8年7月1日から令和10年3月31日までの期間について、加賀市総合サービス株式会社を新たな指定管理者とする議案が提出されている。</p> <p>今回の指定管理は暫定的であり、その後の運営体制の方向性が問われると考える。また、大聖寺ゲートウェイが地域のにぎわい創出や観光拠点としての役割を果たすためには、地元住民との連携を図り、持続可能な運営モデルを構築していくことが重要と考える。</p> <p>こうした点を踏まえ、期間やその後の運営体制、また地域と連携した持続可能な運営の在り方について、方針を問う。</p>	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 上野 清隆

発言番号		発言事項及び発言要旨	備 考
4	(1)	<p>加賀市農林水産業振興行動計画策定事業について これまでの施策の評価と現状の課題について</p> <p>令和2年度に策定した「加賀市農林水産業振興行動計画」は、「生産性の向上」「次世代を担う人材の育成と安定経営の強化」「ブランド戦略の強化」を基本方針とし、デジタル化、高付加価値化、6次産業化、海外展開など、意欲的な施策を掲げていた。</p> <p>この計画期間の終了に伴い、新たに加賀市版「稼げる農業」に向けて必要なプランを策定するとのことだが、特に6次産業化とスマート機器等を活用したデジタル化の推進、ブランド化、担い手不足の取組についての評価と課題を示せ。</p>	
	(2)	<p>加賀市版「稼げる農業」の方向性について</p> <p>最新の農業情勢を反映し、6次産業化や他産業との連携による加賀市版「稼げる農業」に向けてプランを策定するとのことだが、どのような方針か示せ。</p>	
5	(1)	<p>児童発達支援センター「このゆびと一まれ山中」について 現在の状況について</p> <p>児童発達支援センター「このゆびと一まれ山中」について、市と公益社団法人地域医療振興協会の協議状況、受け皿の検討の進捗など、現在の状況を示せ。</p> <p>また、市としてこれまでどのような対応を行ってきたのか示せ。</p>	
	(2)	<p>8月以降の受け皿について</p> <p>現在は7月未までの暫定対応でつないでいるが、8月以降の受け皿が確保できていないと認識している。引き継ぐ事業所が決まったとしても、申請や体制整備には時間がかかるため、現状のままでは支援が途切れる可能性が極めて高い。利用されている方々の支援が途切れないようにすることが何より大切であるとする。市は8月以降の支援継続をどのように確保するつもりなのか、所見を問う。</p>	
	(3)	<p>利用者や保護者への説明について</p> <p>利用者の行き場がなくなる可能性がある中で、利用者や保護者の不安は非常に大きいと考える。市として、これまでどのような説明を行ってきたのか。また、今後どのように丁寧な情報提供を進めていくのか、所見を問う。</p>	